

令和元年度 第2回学校評議員会議録

日 時	令和元年 11 月 26 日 (火) 10:00～12:00
場 所	北海道札幌高等養護学校 会議室
学校評議員会	P T A会長、進路・卒後振興会長、町内会長、 一般企業（取締役生産本部長）、就労移行支援事業所長 計 5 名
出席者	学校評議員 5 名、校長、副校長、教頭、事務長、主幹教諭、教務主任、進路指導部長 計 12 名

会 議 内 容

1 開 会 (教頭)

- (1) 挨拶 (校長)
- (2) 日程説明 (副校長)

2 説 明

(1) 令和元年進路状況について (進路指導部長)

(評議員) 企業アンケート結果のフィードバックはどのように行っていくのか。

(学 校) 進路指導担当者から担任へ伝え、生徒指導に生かしてもらう。

(学 校) 学習指導要領の変更に伴い、企業アンケートの結果を要素として目指す生徒像や教育目標に取り入れ、整理を行い、令和3年を目指して、教育課程や指導計画に反映していく予定。

農福連携が、農業の後継者不足を福祉業界が入り、障がい者雇用につながるという動きがある。

(2) 令和元年度学校評価項目について (主幹教諭)

(評議員) 卒業して学校から離れると相談できる場所がなくなってしまうので、卒業生向けアンケートを加えてはどうか。卒業後の生活での悩みなども聞いてもらえると良い。

(学 校) 学校で学んだ内容が卒業後の生活や職場で役立っているかどうかのアンケートは、11月30日の同窓会総会でとる予定。

(評議員) 保護者が学校評価を書くときに、教育計画や教職員については、子どもに聞かなければならない。親子の会話がないと分からないかもしれない。

(評議員) 設問によって学校の取り組みが伝わるという効果もある。毎回、「分からない」が多い項目が気になる。「知らない」「伝わっていない」など、なぜ分からないのか、理由に幅がある。学校側の意図により設問方法が変わるのではないか。

(評議員) 教職員による学校評価は、学校全体のものか、自己評価か。

(学 校) 学校の取組としての全体評価である。

(3) 令和元年度地域貢献・連携の取組について (副校長)

(評議員) 町内会の草花苗の定植を来年度もお願いしたい。

交通安全運動をするときは知らせてもらい、協力していきたい。

(4) 障がい者就労促進地域連携事業について (副校長)

(5) 本校ホームページについて (教頭)

3 意見交換・評議

(評議員) ホームページが充実していて良い。

(評議員) 学校教育で、企業への定着率、就労意欲の向上を目指してほしい。会社でも社員の満足度を個人面接で意見を聞いている。学校でも生徒の意見を聞くのも大切かと思う。

(評議員) 本評議員会では、様々なテーマがあり外部とのつながりをもつことがどのテーマからも読み取れる。学校内で完結するのではなく、学校から外に向けて発信し、外からの受信ができています。

職員のメンタルヘルスを維持するには、仕事などをカバーし合える人とのつながりがあると、やりがいを感じやすくなり、ストレスの軽減につながる。

(評議員) 地域、保護者、学校が三位一体となっていけると良い。

4 今後の学校評議員会の開催予定について (副校長)

第3回学校評議員会は令和2年3月13日(金)

5 閉 会

- (1) 挨拶 (校長)

